

平成 29 年度西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日 時：平成 29 年 4 月 27 日（木）10 時 00 分から 12 時 00 分

場 所：西宮市役所 8 階 813 会議室

出席者：【委 員】直田 春夫（会長）、川東 美千代（副会長）、横田 祥子
石井 道信、小林 信治

【事務局】市民協働推進課長 谷口 博章、同係長 松野 歳之、同主事 黒木 千聖

○開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

その後、プレゼンテーションの方法について事務局から説明。

○事務局

1 提案につき 20 分を予定。事務局説明・提案者から補足説明 PR で約 5 分、委員からの質疑に約 15 分。会長進行で開始。

1 番目の事業「歴史建築観光サポーター育成事業～市北部地域の歴史的建造物探訪～」について

○会長

事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

では、提案者からの事業説明、PR をお願いしたい。

→提案者から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

昨年度の受講者を軸にした今後の広がりについてどのように考えているか。

◇提案者

平成 28 年度の受講修了者で、サポーターネットというメールをベースにしたゆるやかなネットワークを構築しつつある。

○委員

本事業の実施にあたり、建築学科の学生たちと協働する考えはあるか。

◇提案者

現段階では当団体での事業実施を予定しているが、将来的には様々な主体とパートナーシップを組んでやっていきたい。実際に船坂地区では、武庫川女子大学の学生が古民家の再生に携わっているため、何らかの形でタイアップできればという思いはある。

○委員

船坂地区では学生が熱心に活動しているので、そのような学生との連携により事業に広がりが出てくると思う。

○委員

学生との連携は積極的に行っていただきたい。

◇提案者

生瀬地域のまちづくり団体とのコラボも含めて検討していきたい。

○委員

今回の事業実施に関して、建造物所有者と提案者との間でどの程度話が進んでいるのか。

また、今回の事業において所有者側にメリットはあるのか。

◇提案者

所有者との交渉はこれから行うことになる。今回は住居系の建造物がメインであるため、所有者との信頼関係が重要になる。当団体では、3年前から登録有形文化財のホームドクター活動として、年1回文化財カルテの作成を行っている。毎年実施することで信頼関係が構築され、耐震診断の実施や各種補助制度に関する情報提供など、様々な形でサポートや相談対応を行うようになった。そのようなことが所有者のメリットになりうると考える。

○委員

昨年度のアンケートでは、約90%の受講者が「良かった」と回答しているが、その一方で「トップの方々の方針にバラつきがあるため、かなり困惑した。事前に意思の統一をお願いしたい。」との感想もあった。昨年度は、歴史的建造物について初めて学ぶ方も参加していたのか。

◇提案者

募集の際に資格要件などは設けていなかったため、受講者間で知識量の差はあったが、それが市民講座の面白いところでもあると感じている。

○委員

今年度も実施となった場合は、初めての方への配慮をお願いしたい。

○会長

昨年度からの継続受講希望者で定員が埋まってしまい、新規の受講希望者が参加できないということはないか。

◇提案者

定員を超える応募があった場合、昨年度の受講者を優先的に取り扱うという考えはない。あくまで抽選により受講者を決定したいと考えている。

○会長

冒頭のPRにおいて、所有者、行政、専門家に市民を加えた4者で、歴史的建造物の保存活用に取組むとの説明があったが、所有者の歴史的建造物を持ち続けようという意欲を高めるためには、受講者を含めた大きなネットワークを通じて、多くの市民が歴史的建造物を誇りに感じるような雰囲気を作ることが最も大切と考える。

◇提案者

私たちのねらいはそこにある。私たちがすべてのサポートをできるわけではなく、また、昨年度の受講生がすぐにサポートできるものでもない。今後、受講生が広く情報発信をしていくことで、

市民の中から建造物を守っていこうという機運が高まり、場合によってはそれが企業からの寄附に繋がる可能性もある。国からの補助金だけではできることが限られるので、歴史的建造物のサポートにはそのような機運の高まりがとても大切である。

○会長

担当課の意見を聞きたい。

◇担当課：文化財課

地域の文化財は地域で守っていこうというのが市の方針であり、そのために、まずは文化財のことを知っていただくことが重要になる。そのような機会の創出に取り組んでいる提案団体の存在は、市として非常に心強い。すぐに結果は出ないかもしれないが、継続してこのような事業に取り組んでいただきたいと考えている。

◇担当課：都市デザイン課

当課では景観形成建築物の指定を行っているが、所有者の事情により、指定解除や改築に至る場合がある。今回の提案事業により、市民の皆さんに景観形成建築物のことを少しでも知ってもらうことで、まちの資源としての意識が所有者側に高まり、結果として建物が保存され、残っていくことに繋がるため、今回この事業を協働で実施したいと考えている。

○会長

時間が来たのでこれまで。結果は後日、事務局からお伝えする。

2番目の事業「ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）のしおりで地域共生の種まき」について

○会長

事務局から説明を。

→事務局から事業概要の説明。

では、提案者からの事業説明、PRをお願いしたい。

→提案者から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

しおりの中にはオレンジリングの説明も入れてほしい。オレンジリングの普及がなかなか進まないの、どういうときに使われるかなど、しおりを通じて市民の方にお知らせできればいいと思う。

◇提案者

オレンジリングに関することやオレンジリングを持っている方へのメッセージをしおりに載せるようにしたい。

○委員

サポーターの養成とは、高齢者体験等のような実践的なことをしているのか。

地域で認知症の方を支えていくことやつながりの輪を広げることを意図しているのか。

◇提案者

今回は体験等が目的の事業ではない。ゆるやかなつながりをもって、地域の中でサポートされる側の視点で動ける人を増やすことがねらいである。認知症の方だけではなく、障害のある方など様々な声を丁寧に聞き取り、新しいかたちのサポートに繋げられるようにしたい。

○委員

事業 2 年目は集客に苦勞されたようだが、作成した冊子を「置くだけ」、「団体に配るだけ」ではそのままにされてしまうことが多い。社会福祉協議会や青少年愛護協議会等の団体に働きかけ、説明したうえで配っていくような努力をしてほしい。

○委員

広めるには口コミが一番有効。地道な活動だが、3 年と言わずにずっと続けていってほしい。

○会長

参加者は少なかったかもしれないが、その中から活動につながる人が出てきているはず。今年度はしおり作成により輪を広げることがメインの目的とされているが、一方で、これまで取り組んできた講座や交流の場づくりも大切なので、今後も何らかの形で継続してほしい。実際のアクションが伴うことでしおりがさらに生きてくると思う。

○会長

担当課の意見を聞きたい。

◇担当課：地域共生推進課

西宮市でも、地域の見守りを推進するための事業を実施している。昨年度末までで、延べ 17,000 人が認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングを持っている。しかし、市からの広報だけでは伝わりにくいところがあるため、実際に活動を立ち上げている方や参加されている方の声を伝えていくことによって、市民が地域の活動により参加しやすくなると考えている。

○会長

結果は後日事務局から通知する。
以上の 2 件でプレゼンテーションを終了する。

〈第 2 部 審査〉非公開

○会長

では、1 番目の事業「**歴史建築観光サポーター育成事業～市北部地域の歴史的建造物探訪～**」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○委員

- ・文化財等に指定されれば、所有者は勝手に触れなくなる。指定されると何かと大変なので、指定はらないという方もいる。地域の状況や住民の思いなど難しいこともあるが、地域の皆さんの財産という意識が芽生えて、スムーズに財産を残せるようになればいいと思う。
- ・同じ思いを持つ人を増やすのは手間がかかるし費用もかかる。

○会長

- ・多くの専門家が動けば経費がもっとかかるはず。頑張っていると思う。
- ・市民や地域の人を中心に、「こういうのがいいなあ」という意識を醸成する必要がある。逆に、古い家は早く壊せという声があがってしまうと、所有者も頑張って残していこうという気にならない。

○委員

- ・将来的には、文化財を行政として保護する価値があるかという評価を行い、その評価に応じて優遇措置を取っていくような仕組みが必要。
- ・観光地では、建造物や神社仏閣などの案内をしてくれる市民ボランティアがいる。この事業の参加者が、将来的に市民ボランティアや観光案内の活動に繋がっていくことを期待する。
- ・事業 2 年目となる今年度は、北部地域の歴史的建造物を対象に実施するとのことであるが、北部には南部とは違った良さがたくさんあるので、今回の事業が北部の活性化に繋がることを期待したい。

○会長

- ・登録有形文化財や市の指定文化財でなくても、良い建物はたくさんある。また、市民主体の活動でもあるので、自分たちで基準を決めて建物の選定や検証を行いながら、活動を広げていていただきたい。
- ・昨年度 2 名の辞退者が出たことにもったいなさを感じた。定員 20 名とのことであるが、運営上差し支えない範囲で参加人数を広げられないか。個人宅への訪問であれば人数の制限が必要かもしれないが、講座であれば人数が増えても可能だろうし、その辺りの工夫もお願いしたい。
- ・南部地域対象の講座に参加した方は、北部地域についても参加されたい気持ちがあると思う。そのような人が定員を上回った場合にくじで外れてしまう可能性があるのはもったいない。参加を希望される人がいるなら、運営上可能な範囲で参加できるように工夫してほしい。
- ・受講されただけで終わるのはもったいないので、1 年目の受講者間のネットワークに 2 年目の受講者も含めて参加していただき、今後も繋がりが続いていけばいいと思う。

○委員

- ・繋がりが「できつつある」ではなく、「できました」と言えるようにしてほしい。

○会長

- ・提案団体のような専門家集団だけではなく、市民や受講者を中心に活動できるグループができればいいと思う。座学だけではなく、実際に歴史的建造物を見て回りたい方や、こういった活動に興味がある方はたくさんいるはず。

○委員

- ・建築学科の学生と協働すれば、調査などとても頑張ってくれると思う。

○会長

- ・確かに西宮市は大学との連携もしているので、将来的に学生とも繋がって活動できればいいと思う。専門家の方と行動できれば学生にとっても貴重な経験になる。また、建築学科だけでは

なく、まちづくりなど様々な学部の学生とも連携できる可能性はある。

○会長

では、2番目の事業「ゆるやかつながりサポーター（ゆるサポ）のしおりで地域共生の種まき」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○委員

- ・効果が見えにくく目立たないことかもしれないが、とても大切な活動である。
- ・85歳以上の高齢者のうち、約4人に1人が認知症という時代であり、若い人に認知症のことをしっかりと理解してもらう必要がある。認知症や障害等をひとくりにすることはできないが、提案者等が実際に経験したことをしおりにすることで、一人でも多くの理解者が生まれることを期待する。
- ・プレゼンテーションにおいて、「地域共生館 ふれぼの」で地域交流会を行うとの説明があった。ふれぼのには専門スタッフがいるので、そこうまくタイアップできればいいと思う。
- ・「ゆるサポ」自体の認知度が低いと思われるので、公民館を中心に、講座開催や広報活動を展開することはできないか。人の集まる場所でアピールしていく姿勢があってもいいと考える。
- ・しおりを施設に配架しているだけでは手に取ってもらえないことが多い。実際にこちらからアクションを起こすことが必要。
- ・社会福祉協議会のボランティアセンターでボランティア養成講座が開催されている。実際に地域等で活動している方々が参加するので、その際に広報させてもらえれば効果的と思われる。

○会長

- ・1年目と2年目で実施してきた活動を今後も何らかの形で継続してほしいし、その活動としおりがリンクすればさらに効果的だと思う。
- ・しおりの内容に関しては、本人や配偶者というよりも、むしろ本人の子供の世代の関心が高いように感じる。親のことが少し心配になったときに、しおりを見ることができるようしておくことが大切。社会福祉協議会と関わりの少ない若い世代の方でも手に入れやすいような工夫をしていただきたい。例えば、しおりを探し回るのも大変なので、様々な場所で配架するというのも一つの方法である。また、少し心配という程度の人だと、相談に行ったり資料を取りに行ったりするのも敷居が高いと思われるので、ホームページで閲覧できるようにしてはどうか。ホームページであれば気軽にアクセスできるし、工夫しだいでは費用もそれほどかからないと思われる。

○委員

- ・実践活動に取り組んでいる方が作成したしおりであれば、行政が作成したものよりも読みやすく、敷居も低いと感じるかもしれない。

○会長

それでは、審査結果について、事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。